

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
2	従業員立替金	400,000	当座預金	400,000
3	備品	200,000	当座預金	100,000
	消耗品費	20,000	未払金	120,000
4	買掛金	250,000	仕入	250,000
5	旅費交通費	20,000	小口現金	60,000
	消耗品費	30,000		
	雑費	10,000		
	小口現金	60,000	当座預金	60,000
別解	旅費交通費	20,000	当座預金	60,000
	消耗品費	30,000		
	雑費	10,000		

・解説

1. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

2. 立替金に関する問題です。

本問は、問題文に「従業員 10 名が負担すべき当月分の生命保険料 ￥ 400,000」とありますが、この小切手の支払いは会社にとって負担義務の無い支出なので、従業員立替金勘定で処理します。

また、問題文の後半に「当月末にこの生命保険料は、従業員の給料(総額 ￥ 5,000,000)から差し引くこととした」とありますが、これは今回の立替金の回収方法に関する記述なので、本問においてはダミーデータとなります。

立替金がメインの問題は、第 104 回の間 4 や第 126 回の間 3 でも出題されているので、本問とセットで押さえてください。取引の時系列的には「本問→第 104 回の間 4・第 126 回の間 3」という流れになります。

3. 固定資産の購入と消耗品に関する問題です。

本問はまず、オフィス機器と事務用消耗品をきちんと分類できるかどうか第一のポイントになります。

- ・オフィス機器 ￥ 200,000 : 備品
- ・事務用消耗品 ￥ 20,000 : 消耗品

オフィス機器に関しては備品で処理するだけです。

事務用消耗品に関しては、購入時に「消耗品で資産処理する場合」と「消耗品費で費用処理する場合」がありますが、本問は問題に列挙されている勘定科目の中に消耗品費がある(=消耗品はない)ので、消耗品費で費用処理すると判断します。

★解答仕訳

(借) 備 品 200,000 / (貸) 当座預金 100,000
(借) 消耗品費 20,000 / (貸) 未 払 金 120,000

なお、購入した消耗品のうち、決算期末において使っていない分（未費消分）がある場合は、その分だけ消耗品費を消耗品に振替えます。参考までに仕訳をご確認ください。

☆参考 1・決算期末において 5,000 円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消 耗 品 5,000 / (貸) 消耗品費 5,000

■参考・購入時に消耗品で資産処理した場合の仕訳

購入時に消耗品で資産処理した場合、決算期末において期中に使った分（＝購入分－期末に使っていない分）を消耗品から消耗品費に振替えます。参考までに仕訳をご確認ください。

☆参考 2・消耗品取得時の仕訳

(借) 消 耗 品 20,000 / (貸) 当座預金など 20,000

☆参考 3・決算期末において 5,000 円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消耗品費 15,000 / (貸) 消 耗 品 15,000

■消耗品の処理方法まとめ

・購入時に消耗品費で費用処理する場合

- 購入時：消耗品費で処理する（本問で問われている仕訳）
- 決算時：残っている分を消耗品に振り替える（参考 1 の仕訳）

・購入時に消耗品で資産処理する場合

- 購入時：消耗品で処理する（参考 2 の仕訳）
- 決算時：期中に使った分を消耗品費に振り替える（参考 3 の仕訳）

固定資産と消耗品がセットになった問題は、[第 123 回の間 3](#)でも出題されているのであわせてご確認ください。

4. 仕入戻しに関する問題です。

仕入戻しとは商品を返品することですから、**仕入時の仕訳の逆仕訳**を切ります。

☆仕入時の仕訳（既に切られている仕訳）

(借) 仕入 500,000 / (貸) 買掛金 500,000

★解答すべき仕訳（逆仕訳を切るだけ）

(借) 買掛金 250,000 / (貸) 仕入 250,000

なお、問題文の許容勘定群に「仕入」勘定ではなく「仕入戻し」勘定しかない場合は、仕入勘定の評価勘定である仕入戻し勘定を使って処理します。なお、仕入戻し勘定はその後、決算整理のときに仕入勘定に振り替えます。

☆（参考）仕入戻し勘定を使う場合の仕訳

（借）買掛金 250,000 / （貸）仕入戻し 250,000

☆（参考）決算整理時

（借）仕入戻し 250,000 / （貸）仕入 250,000

仕入戻しに関する問題は、第106回の間2や第132回の間4でも出題されているので、あわせてご確認ください。どちらも簡単なボーナス問題なので、絶対にとりこぼさないようにしてください。

5. 小口現金に関する問題です。

小口現金の仕訳は、【支払いに関する仕訳】と【補給に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【支払いに関する仕訳】

小口現金から支払った経費を計上します。仕訳自体は簡単なので特に問題ないと思います。

★解答仕訳①

（借）旅費交通費 20,000 / （貸）小口現金 60,000

（借）消耗品費 30,000

（借）雑費 10,000

【補給に関する仕訳】

問題文に「同額の小切手を振り出して補給した」とあるので、支払額合計 60,000 円と同額の小切手を振り出して小口現金を補給します。

★解答仕訳②

（借）小口現金 60,000 / （貸）当座預金 60,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

なお、本問は問題文に列挙されている勘定科目に「小口現金」があるので、**借方と貸方の小口現金勘定を相殺して**もしなくてもどちらでも**正解**です。

小口現金に関する問題は、第103回の間2や第105回の間3、第112回の間4、第121回の間4、第126回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。いずれの問題もほとんど同じ形式で何度も出題されています。